

令和5年度 第1回三条市環境審議会会議録

- 1 日 時 令和5年11月13日（月）午後2時00分～3時50分
2 場 所 三条市役所 第二庁舎3階 301会議室
3 出席委員 林八寿子 金子太一郎 羽原康成 田村和弘 名古屋金市
熊倉睦 米田和広 大沢昌一郎 石塚久雄 島田伸子
内藤一恵

（以上11名）

- （欠席委員 高橋由紀子 諸橋亮 富所聡 上村康司）
4 市出席者 長谷川市民部長 五十嵐環境課長 長谷部環境課長補佐
阿保環境衛生係長 坂上生活安全・交通係長
坂井ごみ減量係長 田齋主事

- 5 傍聴者 なし

- 6 報道機関 (株)三条新聞社

7 会議概要

(1) 開会

(2) 市民部長あいさつ

(3) 自己紹介

(4) 議事

ア 会長・副会長の選任について

事務局一任との声が発せられたので、事務局案により会長を林委員、副会長を金子委員にお願いし、全会一致で選任することに決定した。

イ 三条市環境基本計画の進捗状況（令和4年度実施分）について（報告）

事務局から、資料3、3（参考）、4により説明あり

島田委員： 資料No.4、重点的取組①-1(1)完熟堆肥化センターへの搬入量について、令和元年に見直しをしたにも関わらず、改善されていない。どのような問題があり、どのような見直しを行ったのか。また、今後どのように推移していくと考えているか。

五十嵐課長： 以前は、市民から生ごみを搬入していただき、堆肥を製造していた。堆肥の製造にコストがかかる一方で堆肥の需要があまりないことから、学校給食残さを最低限度の形で完熟堆肥化センターに搬入し、製造した堆肥を学校給食用野菜生産農家に納めているため、実績のとおりとなっている。

施設としては、小さい規模で今後も継続し同様の形式で取り組んでいく。

島田委員： 1,470t という数値目標はどのように理解すればよいか。また、目標数値は見直されるか。

五十嵐課長： 当初、市民や事業所から搬入されることを全て想定した中で数値目標を立てたが、運営の見直しにより現在の数値に落ち着いている。目標数値の見直しについては、御指摘のとおり今後考えていきたい。

島田委員： 資料No.3、P1 重点的取組 1-1(2) 燃料の推進について、ペレットストーブの現状を聞きたい。ペレットストーブは、現在も利用されているか。ペレットストーブの台数や費用も記載した方が、市民にとって分かりやすいと思われる。

五十嵐課長： 詳細は現在回答できないが、近年は同じ台数で推移しており、現在も一部小学校等で利用している。

島田委員： 資料No.4、重点的取組 ①-2(1) 間伐材、林地残材の利用量について、2,608 t となっているが、三条保内発電所で利用している木材の内訳はどのようなになっているか。

五十嵐課長： 詳細は現在ないため、調べて報告する。

島田委員： 以前の環境審議会でも市内産間伐材が2割程度との記載があったが、三条市内ではどこで間伐を実施しているか。

五十嵐課長： 基本的には三条市森林経営計画内で発生する間伐材をバイオマス発電所で利用している。

島田委員： 山の斜面を全て切り倒し、三条保内発電所に搬入していると聞いたことがあるため、確認したい。

五十嵐課長： 市としてそのような事案は把握していない。

島田委員： 資料No.3、P1 重点的取組 1-2(2) ものづくりの技術を生かした再生可能エネルギーの利用促進について、市内の風力、水力発電はどこに設置されているのか。

五十嵐課長： 風力発電については、燕三条地場産業振興センターに1基、水力発電は吉ヶ平山荘に設置されている。

島田委員： 資料No.3、P2 重点的取組 2-1(1) 農地・里山環境の保全について、実施内容の欄に有機栽培米・県認証特別栽培農産物の取組面積の拡大を図ったと記載されている。しかし、実施結果を見ると有機栽培米は取組面積が拡大しているが、県認証特別栽培米は拡大していないことから、実施内容の欄に県認証特別栽培米は拡大に至らなかったことも記載するべきではないのか。

五十嵐課長： 農林課で所管している事業であり、因果関係を把握していないことから、後日書面等をもって回答する。

島田委員： 資料No.3、P3 重点的取組 2-2(1) 豊かな自然を生かした環境整備のところでNPO法人が主催し、三条市が後援している内容について、三条市が実施したように記載するのはいかがなものか。

五十嵐課長： 記載のとおりNPO法人が実施し、三条市が後援しているものである。三条市内で自然環境を生かした環境整備が行われていることで三条市に効果があったという認識であるため、このように記載している。

島田委員： 資料No.3、P5 重点的取組 3-2(1) 小中一貫教育における環境教育の推進のところで、エコクラス認定数は多いが、取組校が11校であり認定と比較し、非常に少ない印象を受ける。これだけ認定されているにも関わらず、取り組まなかったということか。

五十嵐課長： 取組校が11校である。エコクラス認定は原則クラス単位で行っている。ただし、1校から複数のクラスが参加している学校があり、認定クラス数は36件となっている。

島田委員： 資料No.3、P6 従来からの取組 1-2(2) 生態系の保全・活用の

ところで、市のホームページ及び広報で市民への周知を行ったとある。5月1日号の広報で特定外来生物の防除に御協力くださいという見出しの中でセイタカアワダチソウについて記載しているが、セイタカアワダチソウは重点対策外来種であり、特定外来生物ではないため、非常に残念な広報である。

外来生物について、三条市内ではどのようなものが何割程度あるか把握したことがあるか。

五十嵐課長： 誤った広報については指摘の点も踏まえ、確認し、今後正しい広報に努めていく。なお、外来生物の割合等については、市として調査などを行い把握しているということは現在はない。

島田委員： 三条市には専門的な知識を持っている方がいるため協力を仰ぎ、把握することで実態に即した防除などが必要と思われる。

熊倉委員： 資料No.3、P12 従来からの取組 2-5(2) 有害化学物質対策の推進について、三条市からは、もみ殻を田んぼに撒くよう指導があるが、農家としては撒ききれないことやその保管場所がないため、もみ殻堆肥のような場所を作るよう要望をしているところである。環境面から堆肥を製造する場所や田んぼに撒くような機械を導入する助成をお願いしたい。また、くん炭自体は認められていることから、燃やしているから野焼きということではなく、くん炭は合法であることを市民に広報等で周知してもらいたい。

五十嵐課長： 基本的にもみ殻くん炭は野焼きの例外であることを環境課、農林課ともに承知をしている。しかし、くん炭による煙で苦情が出た場合は環境課として少し控えて欲しいと言わざるを得ない立場である。また、農業協同組合に確認したところすき込みが推奨されている。ただし、その場所がない中で難しいところもあるため、今後農林課とも連携をする中で、広報のあり方も含め考えていきたい。

内藤委員： 資料No.3、P2 重点的取組 2-1(2) 空き家等の保全及び有効活用のところ、セミナー及び相談会が開催され、200人が参加したとあるが、どのように告知をしたのか。また、セミナーによりどのような効果があったのか。

五十嵐課長： 告知方法については、ホームページのほか、チラシの作成や SNS

等で周知を行った。また、セミナーの効果については市で所管している空き家バンクの登録数が増加し、空き家バンクからの流通件数も近年増加傾向にあることから、一定の効果が認められていると認識している。

内 藤 委 員： セミナーは継続されていく予定か。

五十嵐課長： 令和5年度も継続的に行っており、年4回から5回程度行っていきたいと考えている。

島 田 委 員： 資料No.4、従来からの取組 ②-6(2) ごみ排出量について人口が減少していると思われるが、市民1人当たりのごみ排出量で見た場合はどのようなになっているか。

五十嵐課長： 詳細はないが、過去3年間の傾向では横ばいとなっている。

羽 原 委 員： 資料No.3、P2 重点的取組 2-1(2) 空き家等の保全及び有効活用についての実施効果で51件の空き家に対し、指導、助言等を行ったところ9件の改善が図られたと記載があるが、改善とはどのようなことか。

五十嵐課長： 除却されたことや特定空き家では管理不全の空き家が、管理が行き届いた状態となったことをもって改善としている。

羽 原 委 員： 改善されなかった空き家については対策をするのか。

五十嵐課長： 法に基づいて引き続き指導、助言を行っていく。

羽 原 委 員： 資料No.4、重点的取組 ①資源の循環と再生可能エネルギーの活用について数値目標がそれぞれ達成できていない状況だが、数値目標はどのような経緯でこの数値に定められたのか。

阿 保 係 長： 1(1)完熟堆肥化センターへの搬入量については、施設の年間処理能力の最大値である1,470tが目標数値となっていた。1(1)完熟堆肥化センターからの搬出量は、単純計算ではないが、搬入された生ごみの約3割ということで573tという数値目標となっていた。また、2(1)間伐材、林地残材の利用量については、三条市内の間伐材と林地残材の推計量27,135.2tの8割を目標数値とし

ていた。

羽原委員： 目標が達成されなかった場合、どのような修正を行ったのか。

阿保係長： 第3次環境基本計画では、完熟堆肥化センターの目標数値は定めていない。また、間伐材、林地残材の利用量については第3次計画でも目標数値として計上しているが、間伐材、林地残材のほかに剪定枝を加え目標とした。

田村委員： 資料No.4、重点的取組 ③-2(1) 中学校におけるエコクラス認定数（小学校認定数）について、中学校のエコクラス認定数1クラスとなっている。現状では生徒会、学年単位などの活動が多いため、エコクラスのようにクラス単位になると認定されにくい。学校単位で認定すると、認定数も増加すると思われる。

五十嵐課長： 指摘を踏まえ、生徒会、学年単位などで実施したものについて認定されるよう検討したい。

ウ 第3次三条市環境基本計画の概要について（報告）
事務局から、資料5により説明あり

米田委員： 今後の第3次環境基本計画の進捗管理について、6年間の計画を達成するために今年度の実施内容を整理し、委員に提供して欲しい。また、昨年度の審議会でPDCAが機能していないことが議論に上がったが、現在の資料では実施内容、実施結果のみの整理となっている。審議会では実施結果を評価し、どのように取り組むことが適切か、若しくは見直す必要があるかの議論をする場と認識している。今後は点検結果に対し、市がどのように評価したか、どのように取り組むかを資料に整理し、次年度以降は説明をお願いしたい。

五十嵐課長： PDCAについては重点的取組で具体的な実施内容を示しているが、評価指標に対してどのくらい進んでいるか、それについての考え方を今後、皆様に報告していく中で管理していきたい。

米田委員： 資料4の数字が目標に対してどの程度達成しているかを結果に記載して欲しい。

五十嵐課長： 目標に対する結果だけでは、今後の改善に繋がらないと思うため、なぜ至らなかったのか、今後どのようにすべきかを今後の資料に記載していきたい。

石 塚 委 員： 資料№.5、重点的取組①-1は企業の取組を推進するものが前面に出ており、市民や家庭に対する取組が希薄と思われる。住宅の窓を断熱性の高い二重窓にすることや、省エネルギー性の高いエアコン、暖房機などを使用することにより、脱炭素に繋がるため、PRなどを行ったほうがよいと思う。

五十嵐課長： 市民に対する周知方法は省エネに繋がるチラシの作成やホームページ、広報で行うことなどを昨年度検討したが、情報が溢れている社会において、市での費用対効果が薄いとの議論もあった。そのため、市が率先して公共施設に再生可能エネルギーを導入することにより、市民の行動変容に繋がることを期待したいという考えで記載している。今後も費用を極力かけない中で、市民に対して継続的に周知を行いたい。

島 田 委 員： 三条市が掲げている公共施設の再生可能エネルギーの導入はどのようなものか。

五十嵐課長： ここでいう公共施設の再生可能エネルギーの導入は三条保内発電所の木質バイオマス発電を利用することである。

島 田 委 員： 再生可能エネルギーを導入している公共施設では、電力が三条保内発電所の再生可能エネルギーであることやCO2削減量がどの程度であるかの揭示はしているか。

五十嵐課長： CO2の数値については変動があるため記載していないが、各施設にパネルを設置し、周知をしている。

島 田 委 員： 公共施設における再生可能エネルギー導入だけでは、市民の行動変容に繋がるか疑問である。広報や市役所等の市民が目にするようなものがあると行動変容に繋がると思う。他市町村のようにエコ活動に対するポイント制など市民が動くような取組を検討したほうがよい。

五十嵐課長： 今後、費用をかけない中でできることを実施していきたい。

島田委員： 資料No.5、P.1 重点的取組 ②-1(1) 農地・里山環境の保全のところで「荒廃した里山の整備と奥山での植林を一体実施することで野生動物との共生環境の整備を推進」と記載があるが、奥山の植林は、行う場所に当てがあるのか。

五十嵐課長： 詳しくは農林課の所管となるが、植林の場所については想定し実施しているという認識である。

島田委員： 資料No.5、P.2 重点的取組 ③-2(2)でかんきょう庵は体験型の施設となっているが、Wi-Fi 設備がない。啓発のために早急に取り入れた方がよいと思う。

五十嵐課長： 市民からも同様の意見をいただいている。設置については費用負担もあることから来年度の設置について検討する。

名古屋委員： 水質について5年前と比較し、数値が上昇している河川があるが、基準内であっても、今後調査や考察が必要と考えられる。

先程の島田委員の植林に関する質問について補足すると、資料に記載されている植林は民有林や公有林のうち、所有者から了承を得て、補助などの手続きした上で行っているものである。ただ植林したいという場合に、自由に植林ができる場所は基本的にはない。

また、木質バイオマスについて三条市全体の未利用間伐材の推計値は大変多いが、三条保内発電所との調整、人員等を鑑みると、法令に基づき実施することとなるため、伐採の計画数字は出しにくいと思われる。

五十嵐課長： 水質については市で定期的に水質調査を河川箇所を決めて実施しており、動きはあるものの現在は基準値内である。また、一部基準値を超えている箇所もあるが、原因を究明する中では大きな問題とはなっていないため、今後も調査を実施し対応していく。

金子副会長： 公共施設でペレットボイラー及びストーブを使用しているということだが、ペレットは原料を加工しなければならない関係上、費用がかかるとと思われる。今後、機械の償却時期を迎えると思うが、継続するのか。

五十嵐課長： ペレットボイラーやストーブを導入した当時はペレットと灯油

の価格差があまりない、若しくはペレットの方が安価な状況にあったため、年次的に導入した。しかし、近年は灯油、ペレット共に価格が高騰しており、比較するとペレットの方が高いため、使用数については減少傾向にある。また、今後についてはかんきょう庵のような環境啓発を行う場所においては仮にペレットの価格が高い状況であっても環境政策の観点から一部使用しているということはあるが、全体的にはペレットと灯油の価格差の中で継続するか決めていきたい。

金子副会長： ペレットボイラー、ストーブについて何年間使用しているか。

五十嵐課長： ボイラーは平成 23 年頃から導入している。

金子副会長： 薪を使用したストーブであれば直接使用できるためよいと思う。

五十嵐課長： 燃料コントロールが非常に難しいところである。

林 会 長： 第 2 次環境基本計画の取組指標達成状況で目標数値についての質問や PDCA について報告してほしいという意見があったが、同感である。また、第 2 次計画から第 3 次計画への変更点が分からない。第 3 次計画の P. 50、51 に取組指標として数値目標が掲載されているが、第 2 次計画と同じ指標については数値目標がどのようになっているのか、第 3 次計画では削除された指標についてはその理由、また、新たな項目に関して目標を立てた理由の説明をして欲しかった。

五十嵐課長： 第 2 次計画から第 3 次計画の目標数値に至る具体的な変更点は説明しなかったが、審議会の中で第 2 次計画の結果を踏まえて第 3 次計画を作成したことから、総体的に説明をしているという認識である。しかし、対になっていないことにより、資料が分かりにくいということであれば、第 2 次計画から第 3 次計画に移行した際にどのように変更したのかを分かりやすいような資料作りが可能かを踏まえ検討する。

林 会 長： これから 1 年ごとに進捗状況報告があるため、その段階でお願いしたい。

(5) 閉会